

会員の皆様へ

根研究会は、1997年1月1日をもって第6年目の活動に入ることになります。そこで、「根の研究」第5巻4号は根研究会5周年記念特別号として、これまでの活動をとりまとめることにしました。いつも「根の研究者は証拠もないのに、根も葉もないことばかりいつている」といわれていますので、今回は事実の記録を中心に編集しました。すなわち、主な出来事を年表とした他、「根の研究」や研究集会・シンポジウムの内容を整理しました。お役の立つこともあるのではないかと期待しております。なお、会員の皆様の論文などのリストは、ページ数の関係で第6巻1号に掲載させていただきます。1996年中までに印刷となりましたものをお知らせ下さい。

根研究会の発足から現在までの歩みは年表の形で整理を行ないましたので、発足に至るまでの経緯について、若干、補足をさせて頂きたいと思えます。1991年の手帳を見てみますと、11月の第2週から「SRR」というメモが始まっています。何日だったかについて正確な記録はありませんが、11月上旬に、阿部 淳、中元 朋実、根本圭介、森田茂紀（当時、東京大学農学部）が、東京大学農学部前の「蘭」という喫茶店に集まって研究会の話をしました。これが本号の年表中で準備委員会としているものです。この準備委員会では研究会の日本語と英語の名称について、中元の提案をもとに検討しました。日本語の名称については語呂の点でモメタことを記憶しています。英語の名称はすでに存在していた国際根研究学会（ISRR, International Society of Root Research）をまねましたが、バーロー博士（ブリストル大学、イギリス）のご意見を考慮して、その後、of を for に変更しました。また、この準備委員会でニューススターを出すことを決めましたが、名称は中元の提案、体裁は根本の提案、内容は森田の提案を、それぞれもとに検討しました。事務局の体制についても考えました。このときの議論の結果をもとに案内文書を作成するとともに、それまでに個人的なお付き合いのあった名古屋大学農学部の山内 章さんと農業研究センターの小柳さんに協力を求め、「根の研究」第1巻1号および第1回根研究集会の準備に入ったと記憶しています。

この準備委員会を開くに至ったそもそもの発端はさらに遡り、上記の国際根研究学会についての情報を山崎耕宇先生（当時、東京大学農学部教授）から得たことにあります。その後、この国際根研究学会のシンポジウムに日本から何人かの研究者が参加し、日本にこのシンポジウムを誘致しようという声が上がってきたのが盛り上がりのかきかけとなりました。しかし、森田にしては珍しく、国際根研究学会のシンポジウムを日本へ誘致することに慎重でした。その当時、日本にはこのシンポジウムを受け入れるだけの組織と経験がないことを心配し、まず、日本における根の研究者相互の連絡組織を作ることが必要だと考えたからです。幸い、阿部、根本、中元の3人の賛同が得られ、上記の準備委員会につながっていきました。このよう

に、根研究会の発足には国際根研究学会の存在が大きな影響を与えたことは確かです。また、現在、根研究会会長の森田が国際根研究学会の副会長をしており、友好関係にあります。発足当時から現在に至るまで根研究学会と国際根研究学会とは親子の関係などは全くない、完全に独立した組織であります。

研究会を作った当初は、会員が100名になれば成功と考えていました。しかし、うれしいことにこの予想は外れ、会員数は現在、すでに400名を越えています。しかも、会員の中に様々な分野で活動している、専門を異にする研究者が多いことがこの研究会の特徴です。研究者に限らず、根あるいは根をとりまく環境に関心を持っている方ならどなたでも大歓迎というのが、この研究会の方針であります。研究分野の専門化に伴って学会が細分化してきた最近の傾向とは異なり、発足当初より、既存の学会を横断する組織を目指して参りました。本研究会はすでに学会に匹敵する実をつけてきています。事実、日本学術会議に学術研究団体として登録して選挙権を持つことや、日本農学会に入会して日本農学賞を推薦することも可能です。しかし、私たちは敢えてこのような道を取ってきませんでした。数からいえば作物学の分野に属する会員が多いのですが、そのような狭い枠組みをはずし、根と根を取り巻く環境に直接あるいは間接に関係することであれば何でもOK、という姿勢を持ち続けていきたいと考えております。何卒、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、今年10月26日には、副会長の山内さんや評議員の飯嶋さんにお世話になり、名古屋大学農学部において第6回根研究集会を開催することができました。また、会員の高橋秀幸氏（東北大学・遺伝生態研究センター）が「根の水分屈性に関する研究」で根研究会学術功労賞を受賞されたことはすでにお知らせしたとおりですが、この研究集会で授賞式と受賞記念講演も行ないました。改めまして心よりお祝いを申し上げます。なお、他にもいくつか賞がありますので、来年度に向けて多くの推薦をお願い申し上げます。第7回根研究集会は1997年5月17日に大阪府立大学農学部で開催することになっており、ファイトテクノロジー研究会との共催の方向で検討しております。簡単にはお知らせは本号に掲載いたしましたし、詳細につきましては次号でお知らせ致しますので、奮ってご参加下さい。

最近、会員の方より、民間財団の研究助成へ応募申請するために根研究会会長の推薦を依頼されました。すぐれた内容と判断しましたので、喜んで推薦させて頂きました。根研究会は、会員の皆様のためにあるものですので、是非、積極的に研究会を利用することをお考え下さい。研究会としまして、できるだけのことをさせて頂きたいと考えております。

1996年12月
根研究会会長 森田茂紀